

月次レポート

第83号
2015年10月9日作成

ユニオンファンド

追加型投信／内外／株式
分配金再投資専用



「ユニオンファンド」の「月次レポート」(2015年10月9日作成)をお届けします。

運用状況のご報告

ユニオンファンド概況



*** 複利年率 +10.31%**

*「複利年率」とは設定から現在まで運用を行った結果、複利で換算した場合に何%でまわっていたかを表したものです。過去の実績値であって、将来の成績を約束するものではなく、また個々の受益者ごとの購入時期によって運用結果は異なります。

■ 組入れファンドの内訳 (組入比率は9/30付け)

ファンド名	主な地域	組入比率	目標投資比率	目標比
さわかみF	日本	8.7%	10%	-1.3%
キャピタルF	欧米	12.0%	18%	-6.0%
ハリスF	欧米	12.9%	23%	-10.1%
コムジエスF	新興国	28.6%	49%	-20.4%
キャッシュ	-	37.8%	-	-

ファンドマネージャー コメント

小数点第2位を四捨五入

ユニオンファンドの運用状況

おかげ様でユニオンファンドは2015年9月末に7期目の決算を迎えることができました。

そこでこれまでの運用状況・運用成績などを振り返ってみました。

《ご参考:組入れファンドの内訳(キャッシュ除きの実質組入比率)》

ファンド名	主な地域	実質組入比率	目標投資比率	目標比(実質ベース)
さわかみF	日本	14.0%	10%	+4.0%
キャピタルF	欧米	19.3%	18%	+1.3%
ハリスF	欧米	20.7%	23%	-2.3%
コムジエスF	新興国	46.0%	49%	-3.0%

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

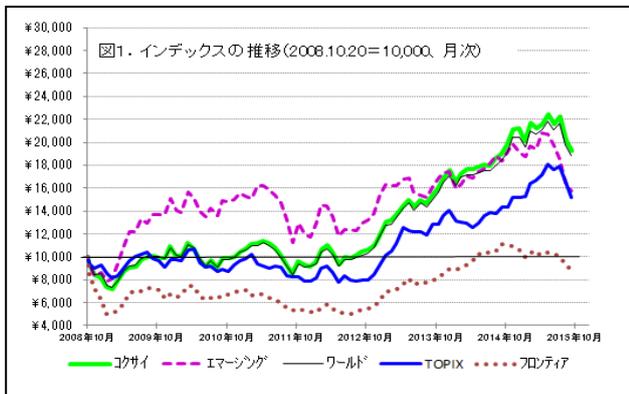
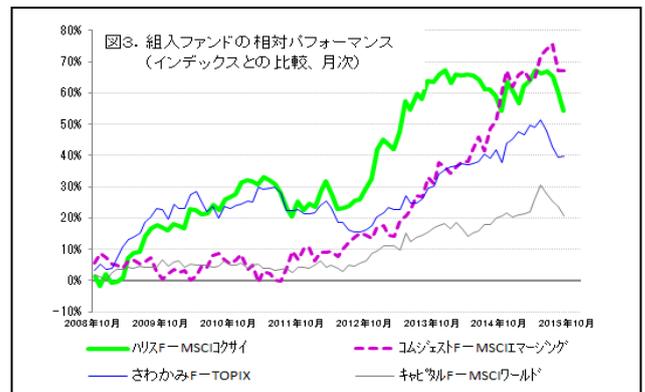
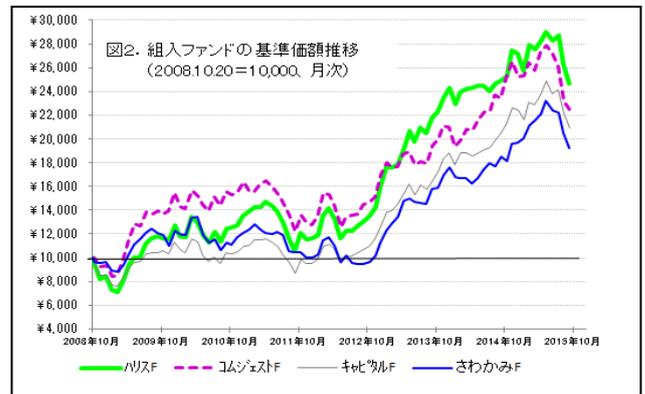


図1はユニオンファンド設定来のインデックス(代表的な株式市場の平均値)の推移です(月次ベース)。

これに対し、ユニオンファンドが組み入れている4ファンドの基準価額推移は図2の通りです。

図1に比べ図2の勢いが強い状況が続いています。これは組入4ファンドのパフォーマンスがインデックスよりも良好なことを示しています(図3)。



4ファンドはともに堅調ですが、設定来では[ハリスF]、[コムジェストF]が好調です。

この4ファンドを加重平均し、キャッシュ(現金)部分を加えたものがユニオンファンドの基準価額となります。

ところで、ユニオンファンドと比較できる適切なインデックスが市場には存在していません。

そこで弊社では次のような「全世界疑似ベンチマーク」を作成し、ユニオンファンドと比較しています。

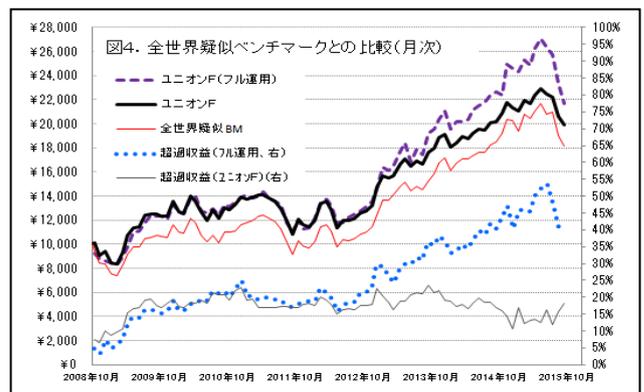
【弊社「全世界疑似ベンチマーク(以降、疑似 BM)」について】

地域	インデックス	株式時価総額比率
日本	① TOPIX	7%
先進国	② MSCI コクサイ	70%
新興国	③ MSCI エマージング	22%
途上国	④ MSCI フロティア	1%
全世界	弊社「疑似 BM」	①-④を時価総額比率で加重平均

この「疑似 BM」とユニオンファンドを比較したものが図4です。

- まず、ユニオンファンドは投資方針として「現金比率を増減」させています。
(・・・割高時には現金比率を高め、割安時での買い増しに備える)

このため「フル運用の基準価額」(=現金ゼロの場合の理論値)も表示しました。



◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

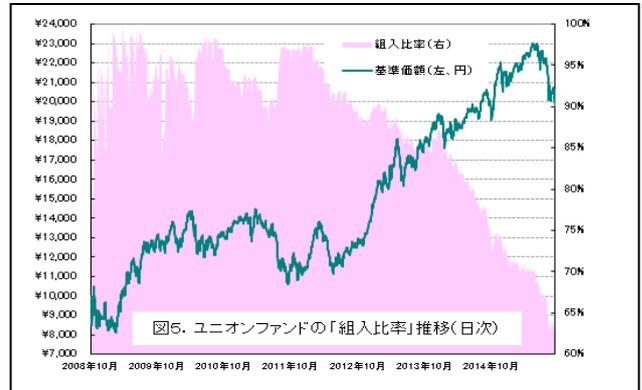
「フル運用」のユニオンファンドは「疑似 BM」を概ね右肩上がりで凌駕しています(超過収益が拡大)。
 (・・・組入4ファンドの良好なパフォーマンスが反映されています)

・一方、ユニオンファンド(実際の基準価額)の超過収益は概ね横ばいで推移しています。

・両者の超過収益の「差」は「現金比率」によるものです。

・ユニオンファンドは2012年6月以降の上昇相場において現金比率を高めてきました(図5)。
 現金部分には「値上がり」がないため、上昇局面では相対パフォーマンスは劣後しています。

・逆に現金部分には「値下がり」もないため、株式市場が下落する局面ではその分基準価額は下げ渋っています。
 (・・・相対パフォーマンスは改善しています)



「目標投資比率」の推移は図6の通りです。

ユニオンファンドでは「期待成長率」が高いと思われる「新興国」の目標投資比率を高めています(株式時価総額シェア比)。

4ファンドの実際の組入比率推移は図7の通りです。

「目標投資比率」に概ね沿った組入れとなっています。

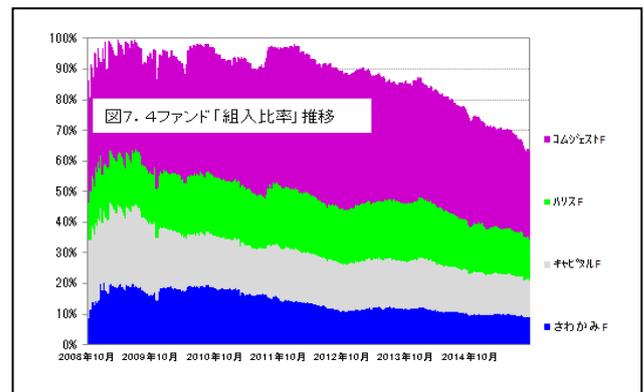
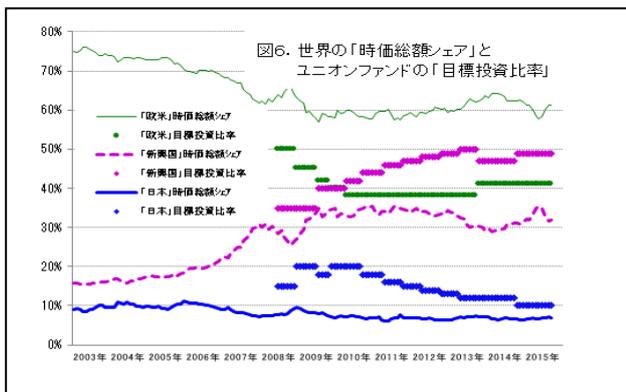


図8はユニオンファンドを「投資額」「キャッシュ(現金)」「評価損益」の3つに分解したものです。

現状では3者が概ね均衡した比率となっています。

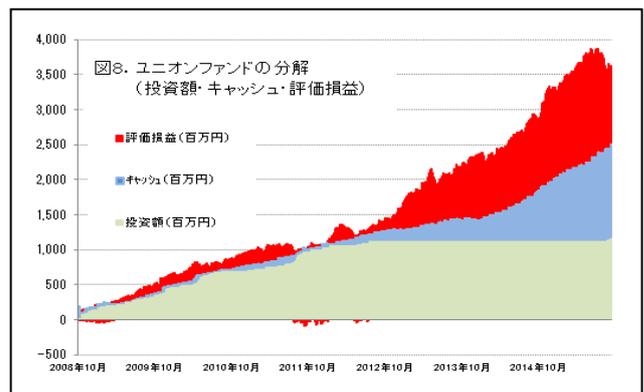


図1~8の出所: MSCI、YAHOO ホームページ、国際取引所連合

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
 ◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
 ◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

ユニオンファンドは設定以来、下記の投資方針で臨んできました。

◇基準価額低迷の時(=概ね割安な状況の時)は「フル運用(95%超)」

…例えばリーマン・ショック後の数年間

◇基準価額好調の時(=概ね割高な状況の時)は「追加投資(組入)は概ね見送り」

…例えばこれまでの数年間

ユニオンファンドは 20 年、30 年という長期にわたる個人家計の「資産形成」を支援していくことを大きな目標としています。

世界の「名目 GDP=国内総生産=経済規模」が拡大していく限り、株価は長期的には上昇していくと考えます。

しかし、長期にわたる運用の中では「景気変動」を受けざるを得ず、「株価変動」を避けることはできません。従って、株価は上がり続けることはありませんし、また下がり続けることもありません。

長期の株式投資において避けるべきことは、

- ・「割高」な状況なのに「更なる値上がり」を狙ってフル運用を続け、
- ・逆に「割安」な状況なのに「更なる値下がり」を恐れて現金を増やす

ことです。

株式市場即ち「インデックスとの競争」を強く意識する場合に陥り易い傾向です。

ユニオンファンドでは、

- インデックスと競争するという意識は持たず、
- 株価「好調時には慎重」に、株価「低迷時には強気」に

という「投資方針」を続け、長期的な株価上昇トレンドを無理なく安定的に享受していきたいと考えています。

今年 8 月下旬以降の株価暴落により世界の株式市場の割高感がやや薄れてきました。

そこでユニオンファンドでは「少しずつ」「丁寧に」新規追加投資を始めています。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 運用報告

■ ユニオンファンドは、

①「株式」に投資する ②「グローバル」に投資する ③インデックスでなく「アクティブ」に投資する
ファンドの中から実績を挙げてきた4つのファンドに投資しています(ファンド・オブ・ファンズ)。

■ ユニオンファンドはグローバルな成長を平均的・安定的に享受するため、世界の株式時価総額シェアを基準に地域別「目標投資比率」を決め、それに基づいて投資しています。現状では、世界の株式時価総額シェアに比べ、「日本」と「新興国」のウェイトを高めとし、「欧米」を低めとしています。

「日本」：低成長市場だが身近な精通した市場

「新興国」：伸び盛りの高成長市場

「欧米」：成熟した低成長市場

■ 下記要因などから9月も前月に続き世界同時株安となりました。

- ・米国利上げが接近し、「ドル高・新興国資金流出」懸念が拡大
- ・原油価格(WTI)をはじめ資源価格の下落基調が継続
- ・中国の景気減速が鮮明となり、世界景気悪化懸念が拡大
- ・ドイツVW社の違法な排ガス制御ソフトウェア事件が世界景気悪化懸念を追い打ち

■ 9月の基準価額推移・・・初旬は下落基調(9/8日：前月末比▲3.6%)。その後は市場に押し目買いが入り一旦上昇(9/18：同▲0.3%)。VW問題が表面化したことで市場が急落し、以後月末まで下落が続く。月末は同▲5.0%の19,779円で終了。

■ 9月是一部買付を行いました。追加設定や基準価額の大幅下落により、月末の組入比率は前月末比▲1.9%の「62.2%」となりました。

■ 今後の運用方針

● 今後の市況見通し

・市場は引き続き下記リスクを内在しています。

- 米 国：「利上げ・ドル高」による企業業績悪化、シェール開発企業破綻
- 欧 州：ギリシャ問題のポルトガル・スペインなどへの波及、ドイツVW社問題の浮上
- 日 本：アベノミクス成長戦略の行方、財政再建の行方、円高への回帰
- 中 国：不動産バブル・株式バブル崩壊による世界景気悪化
- 新興国：資金流出・通貨安・金利上昇
- 紛 争：「イスラム国」など地政学的リスク拡大、移民急増の政治・経済問題化

・上記リスクの一部顕在化を受け金融市場は8月以降一気に不安定化し、「株式」「商品」「為替」が乱高下しました。株価の割高感はかなり薄まってきましたが、「中国減速」はこれから全世界の企業業績に反映されます。10月以降の決算発表に敏感な神経質な展開を引き続き予想しています。

● 目標組入比率

・現在の目標組入比率「60～100%」を「5%」広げ、「55～100%」(=キャッシュ比率「0～45%」)とします。

9月末の組入比率は「62.2%」(キャッシュ比率37.8%)と、当初の下限に近づいてきました。

8月以降新規追加投資を徐々に開始していますが、市場の激変によっては一気に下限を超える可能性が出てきました。このため、組入比率の幅を「5%」広げます。

・引き続きキャッシュ比率を高めに維持しながら、下落局面での買い増しを徐々に行っていきます。

● 地域別目標投資比率

現在の「地域別目標投資比率」を維持します。・・・日本：10%、欧米：41%、新興国：49%。

● ファンド選定

当面、現在の4つのファンドに投資していきます。

● ファンド別目標投資比率

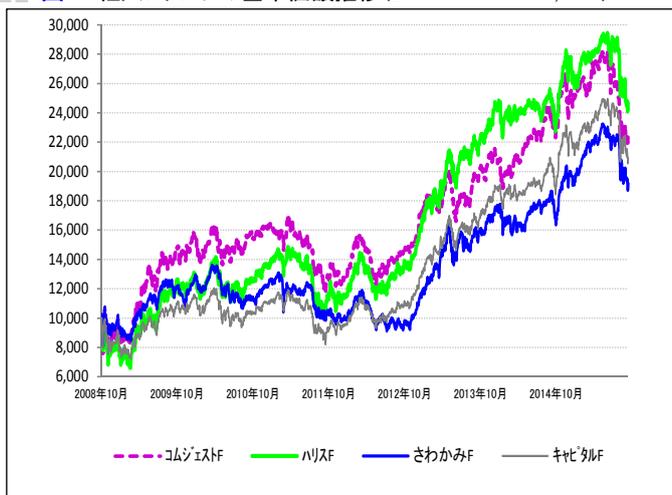
現在の「ファンド別目標投資比率」を維持します。・・・「さわかみF」：10%、「キャピタルF」：18%、「ハリスF」：23%、「コムジェストF」：49%

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

「ユニオンファンド概況」補足コメント

■ 図1 組入ファンドの基準価額推移(2008. 10. 20=10,000)



>> 図1 基準価額推移

9月は4ファンドとも大きく下落。
9月1か月間の騰落率は次の通り。
・・・「ハリスF: ▲10.1%」、「コムジエストF: ▲6.1%」
「キャピタルF: ▲7.3%」、「さわかみF: ▲9.9%」

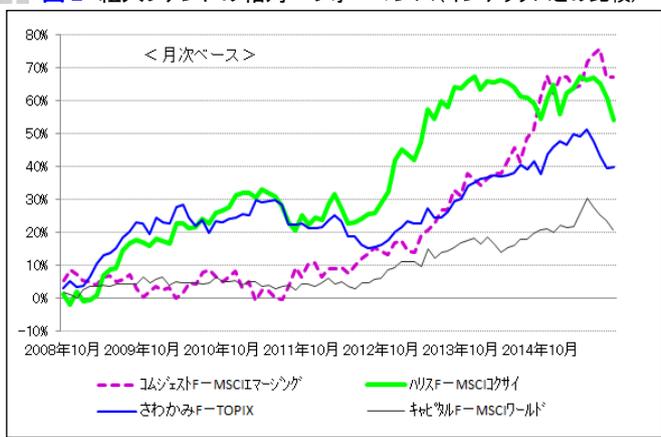
>> 図2 相対パフォーマンス

4ファンドともインデックスを上回るパフォーマンス。
「コムジエストF」……………設定来 約67%凌駕
「ハリスF」……………同 約54%凌駕
「さわかみF」……………同 約40%凌駕
「キャピタルF」……………同 約21%凌駕

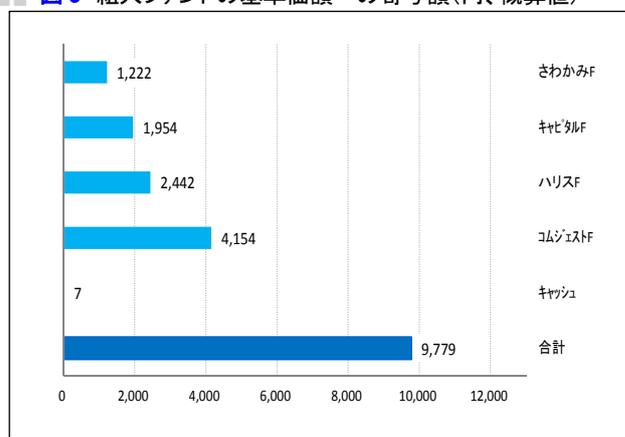
>> 図3 寄与額

9月末の基準価額が19,779円となっていることから、9,779円の評価益に。月末時点の寄与額内訳は第3図の通り。

■ 図2 組入ファンドの相対パフォーマンス(インデックスとの比較)



■ 図3 組入ファンドの基準価額への寄与額(円、概算値)



>> 図4 時価総額シェア・目標投資比率

「時価総額シェア」・・・

新興国: 最近下落し約32%

欧米: 最近上昇し約61%

日本: 約7%の横ばい

「地域別目標投資比率」・・・

日本: 10% (シェア比+3%)

欧米: 41% (シェア比▲20%)

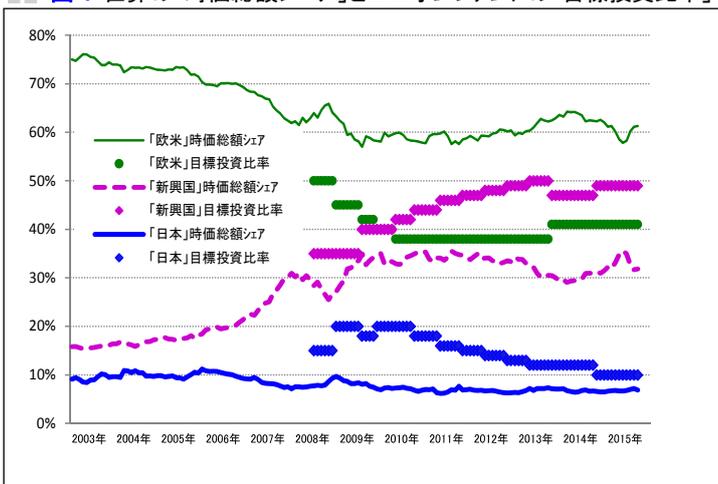
新興国: 49% (シェア比+17%)



運用部長 (ファンドマネージャー)

坂爪 久男

■ 図4 世界の「時価総額シェア」とユニオンファンドの「目標投資比率」



(出所) 「時価総額シェア」: ユニオン投信株式会社調べ

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目録見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

組入れ4ファンドの状況

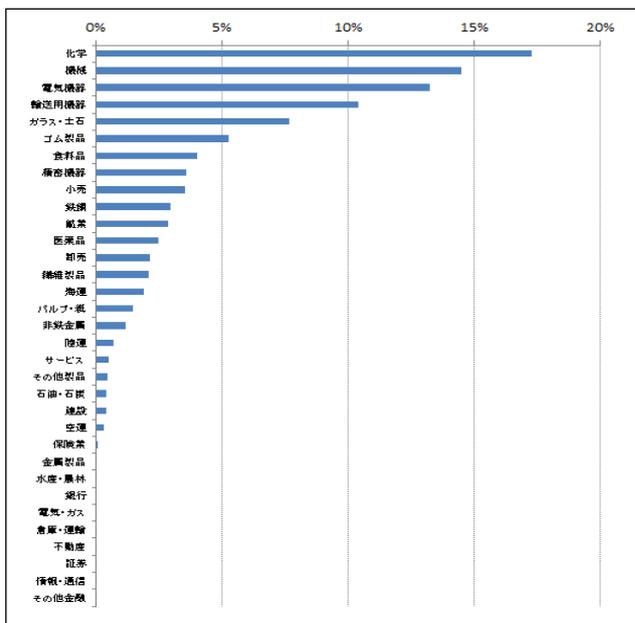
■ さわかみF（さわかみファンド）

■ 株式組入上位 10 銘柄等

2015年9月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	ブリヂストン	4.6%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位
2	トヨタ自動車	4.4%	日本	輸送用機器	自動車世界大手
3	花王	3.1%	日本	化学	トイレット-首位
4	日本電産	3.0%	日本	電気機器	精密モーター世界首位
5	TOTO	2.9%	日本	ガラス・土石	衛生陶器首位
6	国際石油開発帝石	2.5%	日本	鉱業	石油メジャー
7	デンソー	2.4%	日本	輸送用機器	世界的自動車部品メーカー
8	三菱重工	2.4%	日本	機械	世界的総合重機メーカー
9	日本特殊陶業	2.3%	日本	ガラス・土石	プラグ・センサー世界一
10	7&i	2.3%	日本	小売	流通コングロマリット
上位 10 銘柄		29.8%			
その他 93 銘柄		55.8%			
キャッシュ		14.4%			

■ 業種別構成比



業種：東証 33 業種

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

◆業種のメリハリを効かせることで個性あるポートフォリオを作り上げている。

◆ポートフォリオの特徴は、

- (1) 「化学」「機械」「電気機器」「輸送用機器」「ガラス・土石」「ゴム」「精密機器」「鉄鋼」など“ものづくり”、“輸出型”企業の比率大。
- (2) “内需型”企業では「金融」「通信」「不動産」「倉庫」「公益」などの比率を抑え、「食料品」「小売」「医薬品」など“生活関連”にシフト。

◆9月は小動き。現金比率は14%超に。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ キャピタルF（キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド(LUX)クラスZ）

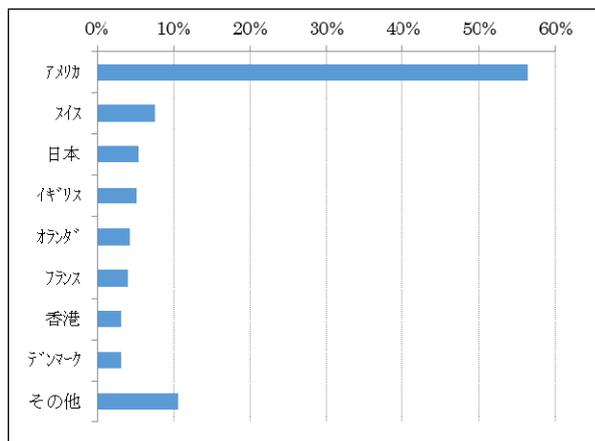
■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

2015 年 8 月末現在

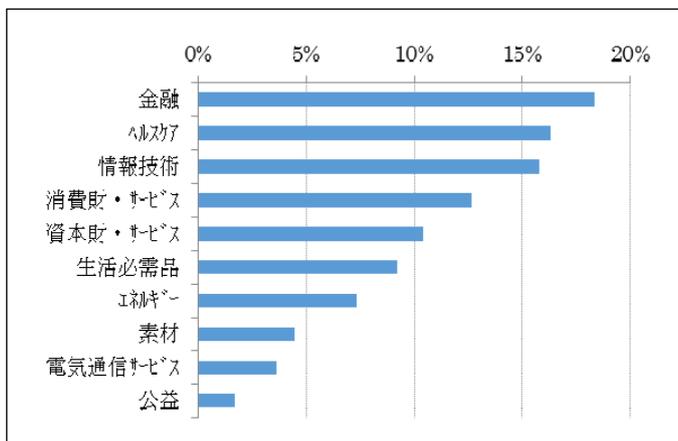
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	Goldman Sachs	3.1%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行
2	Novo Nordisk	3.0%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品バイオ
3	Incyte	2.7%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品バイオ
4	Microsoft	2.0%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピュータ・ソフト
5	AIA	1.7%	香港	金融	生保・金融サービス
6	Visa	1.6%	アメリカ	情報技術	世界有数のクレジットカード
7	Google	1.6%	アメリカ	情報技術	世界一の検索エンジン
8	ASML	1.6%	オランダ	情報技術	半導体製造装置大手
9	Wells Fargo	1.5%	アメリカ	金融	アメリカ大手銀行
10	CME	1.3%	アメリカ	金融	シゴ先物取引所
上位 10 銘柄		20.1%			
その他 151 銘柄		73.0%			
キャッシュ		6.9%			

■ 国別構成比（マザーファンド）



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■ 業種別構成比（マザーファンド）



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆日本を含む先進国に幅広く投資（150 銘柄程度）。
- ◆インデックスに対し大きな偏りをとらず、長期間の安定的な超過収益を狙うファンド。
- ◆半年前に比べ、業績好調な「情報技術」や割安な「金融」が増加し、景気低迷下での「素材」や「エネルギー」などが減少。
- 割安との判断から「金融」がこの数年間組入セクターのトップ。
- ◆組入上位 10 銘柄は「金融」「情報技術」「ヘルスケア（バイオ）」の 3 業種。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書（交付目論見書）の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。

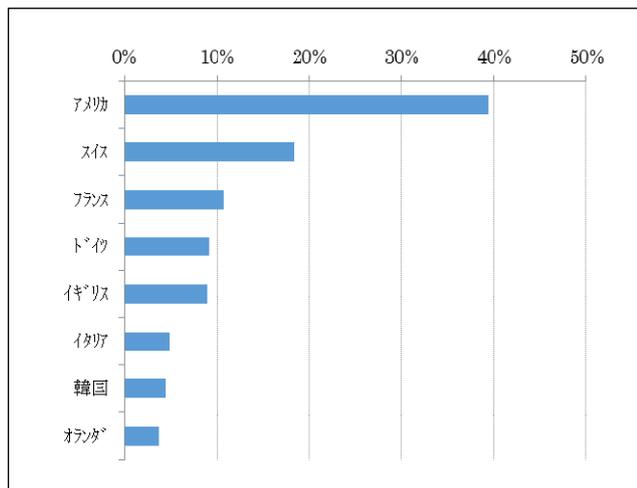
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 グループ 2015 年 8 月末現在

	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	CREDIT SUISSE	5.2%	スイス	各種金融	スイス大手銀行
2	BNP PARIBAS	4.9%	フランス	銀行	フランス大手銀行
3	CNH INDUSTRIAL	4.7%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー
4	ALLIANZ	4.7%	ドイツ	保険	総合保険大手
5	SAMSUNG ELECTRONICS	4.3%	韓国	テクノロジー・ハード	総合家電大手
6	DAIMLER	4.2%	ドイツ	自動車	世界自動車大手
7	AIG	4.2%	アメリカ	保険	総合保険大手
8	JULIUS BAER	4.0%	スイス	各種金融	プライベートバンク
9	KONINKLIJKE PHILIPS	3.8%	オランダ	資本財	世界的電機・家電メーカー
10	INTEL	3.6%	アメリカ	半導体	世界最大の半導体メーカー
上位 10 銘柄		43.6%			
その他 26 銘柄		53.0%			
キャッシュ		3.4%			

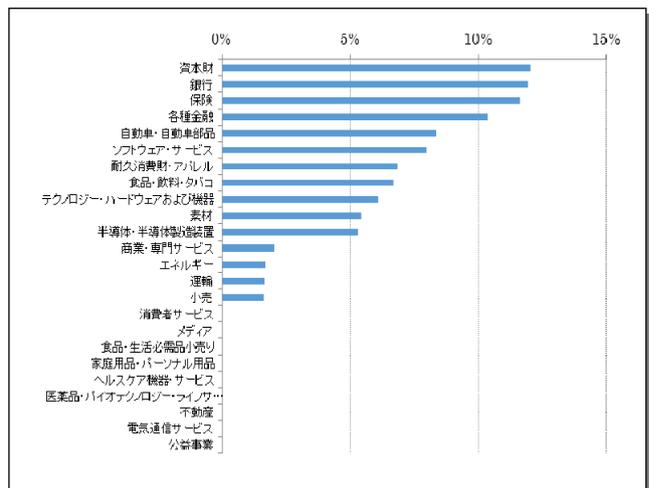
■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)

※2015 年 9 月末現在



業種: MSCI 世界産業分類基準の 24 産業グループ
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 割安な 40 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。日本除きの世界各国に投資。
- ◆ 「金融」が最大の投資セクター(組入比率: 約 34%)。パフォーマンスへの貢献度は大。業績好調なカード会社や資産運用会社などの比率を高め銘柄選択効果を効かせている。
- ◆ 「金融」以外では、景気敏感セクターの「資本財」「自動車関連」「ソフトウェア」「耐久財」「テクノロジー」「素材」や安定セクターの「食品・飲料」などのウェイトを高めている。
- ◆ 「株価が目標圏に到達した銘柄の利食い・割安株の買い付け」を活発に行っているが、最近では割高となった「商業サービス」「素材」「消費者サービス」「運輸」などを引き下げ、割安な「資本財」「半導体」「自動車」「ソフトウェア」「テクノロジー」などを引き上げ。

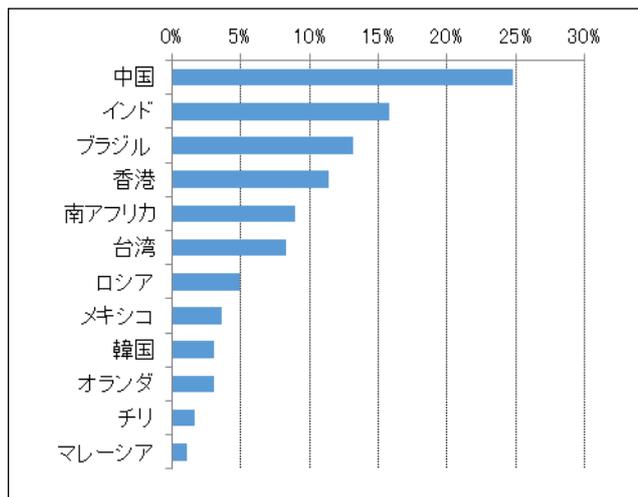
◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

■ 株式組入上位 10 銘柄等

業種:MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター 2015 年 9 月末現在

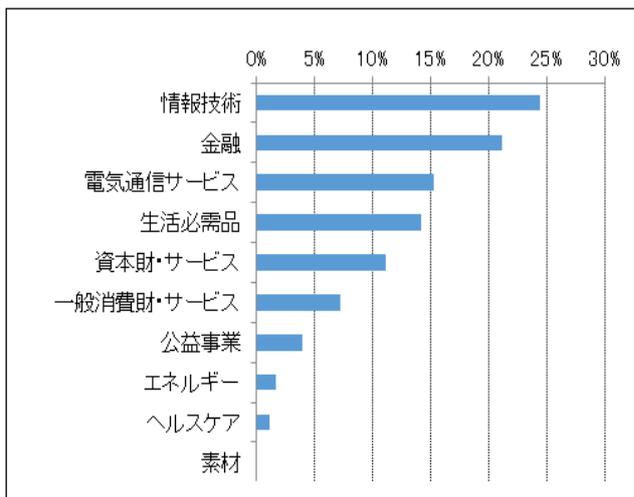
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等
1	CHINA LIFE	7.3%	中国	金融	生保
2	TAIWAN SEMICONDUCTOR	7.3%	台湾	情報技術	半導体メーカー
3	CHINA MOBILE	6.0%	中国	電気通信サービス	携帯電話
4	INFOSYS	5.2%	インド	情報技術	ITソフト総合サービス
5	PING AN INSURANCE	4.1%	中国	金融	総合保険
6	NETEASE	4.0%	中国	情報技術	オンラインゲーム
7	MTN	3.9%	南ア	電気通信サービス	携帯電話
8	CKH	3.9%	香港	資本財・サービス	不動産・保険等の複合企業
9	POWER GRID OF INDIA	3.7%	インド	公益	電力関連(送電網)
10	FOMENTO ECONOMICO	3.4%	メキシコ	生活必需品	食品・たばこ
上位 10 銘柄		49.0%			
その他 27 銘柄		45.1%			
キャッシュ		5.9%			

■ 国別構成比 (マザーファンド)



構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

■ 業種別構成比 (マザーファンド)



業種: MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター
構成比: 現物ポートフォリオに占める比率 (キャッシュ含まず)

≫ ユニオン投信株式会社としてのコメント

- ◆ 質の高い新興国企業 (新興国売上比率の高い先進国企業含む) を 50 銘柄程度に絞り込んで運用するファンド。
- ◆ 類まれな事業基盤を有し長期的高成長が期待できる企業に選別投資。
具体的選別基準は、①参入障壁が高く長期的収益見通しが立て易い企業、②健全で利益率が高い企業、③適切な株価水準にある企業 など。
- ◆ 新興国市場の主要セクターは「資源・エネルギー」や「金融関連」に大きく偏っているが (BRICs 諸国では概ね 5~6 割程度)、当ファンドは「情報技術」「通信」「生活必需品」「資本財」などに高ウェイト (資源・金融は 1~2 割程度)。このため新興国市場が市況高 (資源・原油高) で上昇する場合は追従できないことが多い。しかしそれ以外では銘柄選択効果が発揮され、長期的な相対パフォーマンスは極めて良好。
- ◆ 最近では、「情報技術」「ヘルスケア」「エネルギー」などが減少し、「金融 (生保・その他金融)」「消費財」「生活必需品」などが増加。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書 (交付目論見書) の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

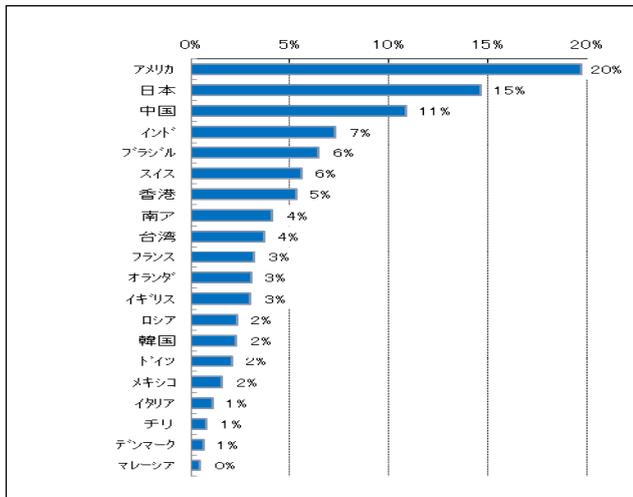
ユニオンファンド(組入4ファンド トータル)の状況

■株式組入上位 30 銘柄等

2015年8月末現在

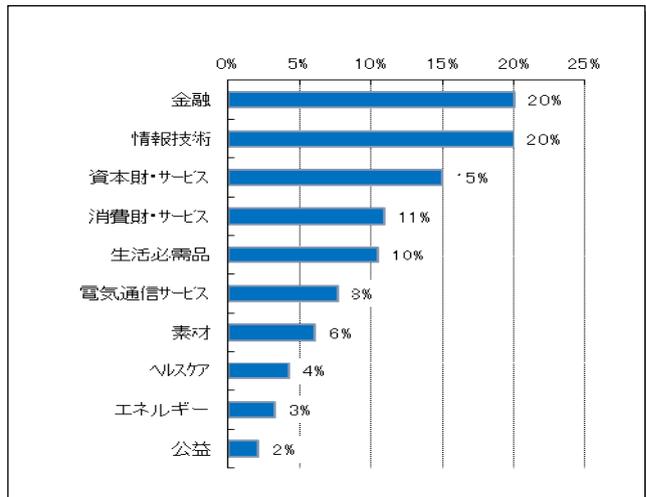
	組入銘柄等	組入比率	国籍	業種	業務内容等	主要組入F
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR	2.0%	台湾	情報技術	半導体メーカー	コムジェストF
2	CHINA LIFE	2.0%	中国	金融	生保	コムジェストF
3	CHINA MOBILE	1.7%	中国	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
4	INFOSYS	1.4%	インド	情報技術	IT/IT総合サービス	コムジェストF
5	CKH	1.2%	香港	資本財・サービス	不動産・保険等の複合企業	コムジェストF
6	MTN	1.2%	南ア	電気通信サービス	携帯電話	コムジェストF
7	PING AN INSURANCE	1.1%	中国	金融	総合保険	コムジェストF
8	POWER GRID OF INDIA	1.1%	インド	公益	電力関連(送電網)	コムジェストF
9	NETEASE	1.0%	中国	情報技術	オンラインゲーム	コムジェストF
10	FOMENTO ECONOMICO	0.9%	メキシコ	生活必需品	食品・たばこ	コムジェストF
11	CREDIT SUISSE	0.7%	スイス	各種金融	スイス大手銀行	ハリスF
12	BNP PARIBAS	0.7%	フランス	銀行	フランス大手銀行	ハリスF
13	CNH INDUSTRIAL	0.7%	オランダ	資本財	農機・建機メーカー	ハリスF
14	ALLIANZ	0.7%	ドイツ	保険	総合保険大手	ハリスF
15	SAMSUNG ELECTRONICS	0.6%	韓国	テクノロジー・ハード	総合家電大手	ハリスF
16	DAIMLER	0.6%	ドイツ	自動車	世界自動車大手	ハリスF
17	AIG	0.6%	アメリカ	保険	総合保険大手	ハリスF
18	JULIUS BAER	0.5%	スイス	各種金融	プライベートバンク	ハリスF
19	KONINKLIJKE PHILIPS	0.5%	オランダ	資本財	世界的電機・家電メーカー	ハリスF
20	INTEL	0.5%	アメリカ	半導体・同製造装置	世界最大の半導体メーカー	ハリスF
21	トヨタ自動車	0.4%	日本	輸送用機器	自動車世界大手	さわかみF
22	ブリヂストン	0.4%	日本	ゴム製品	タイヤ世界首位	さわかみF
23	Goldman Sachs	0.4%	アメリカ	金融	世界最大の投資銀行	キャピタルF
24	Novo Nordisk	0.4%	デンマーク	ヘルスケア	医薬品パイ	キャピタルF
25	Incyte	0.3%	アメリカ	ヘルスケア	医薬品パイ	キャピタルF
26	日本電産	0.3%	日本	電気機器	精密モーター世界首位	さわかみF
27	花王	0.3%	日本	化学	トイレット紙首位	さわかみF
28	Microsoft	0.3%	アメリカ	情報技術	世界最大のコンピューター・ソフト	キャピタルF
29	国際石油開発帝石	0.2%	日本	鉱業	石油メジャー	さわかみF
30	TOTO	0.2%	日本	ガラス・土石	衛生陶器首位	さわかみF
	上位 30 銘柄	22.9%	(注)各組入F開示資料に基づくランキング			
	その他 310 銘柄	37.1%				
	キャッシュ	40.0%	(注)各組入Fのキャッシュを含む			

■国別構成比 (上位 20 カ国)



構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

■業種別構成比



業種：MSCI 世界産業分類基準の 10 セクター

構成比：現物ポートフォリオに占める比率（キャッシュ含まず）

>> コメント

- ☆組入銘柄数：340、投資国数：20 カ国。
- ☆組入上位 30 銘柄明細：40 銘柄程度に絞り込んでいる「コムジェストF」「ハリスF」の組入銘柄が上位に。
- ☆国別構成比：アメリカが1位で20%、日本が2位で15%、3位以下は中国の11%など新興国が続く。
主要新興国では中国・インド・ブラジル・南ア・ロシア・メキシコの順。
- ☆業種別構成比：「金融」「情報技術」「資本財」「消費財」「生活必需品」の上位5業種で約8割を占める。
最近6ヵ月間の業種別動向：割安な「金融」「通信」が増加し、割高な「情報技術」「ヘルスケア」や資源安の「エネルギー」などが減少。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

〇〇ショック

ユニオン投信株式会社 取締役
清水 学



こんにちは。ユニオン投信の清水です。

ほぼ毎年のように、「〇〇ショック」という言葉が出てきます。

ここ数年では「リーマン・ショック」・「トヨタ・ショック」・「ソニー・ショック」・「ギリシャ・ショック」・「シャープ・ショック」が記憶に新しいところだと思います。「〇〇ショック」は世界経済悪化や株価暴落・急落が発生した時に、その発生要因として出てくる言葉です。

つい最近では「中国・ショック」が短期間に数度ありましたが、9月29日も「中国・ショック(懸念)」が主要因となって世界同時株安が起きました。我が国日本では「日経平均株価指数」が前日比で714.27円(4.05%)下落しました。

ところで世界同時株安となった9月29日は、もう一つの「〇〇ショック」という言葉をマスコミやSNSなどから耳にしました。

それは、「福山・ショック」です。

皆様ご存知の通り、9月28日に歌手・俳優の福山雅治さんと女優の吹石一恵さんがご結婚されるという報道がありました。

本来は“おめでたい”ニュースですが、「福山・ショック」は日本のみならず、中国・台湾・韓国にも波及した模様です。

私もご多分に漏れず、SNSや個人ブログ等で福山雅治さんご結婚に関するコメントを拝見させていただきました。

『もう生き甲斐がなくなった』『仕事をする気がなくなったので、今日は早退します』『夕飯をつくる気が失せました』
『永遠の独身男性でいて欲しかった』『ヤケ酒しかない!』・・・etc

・・・いかがでしょうか？（余談:本件に関し、理解できない・大いに誤解を招く発言をした政治家がいたのが残念でしたが。。）

私は正直2つの感想を持ちました。

- ①上記のコメントを発している方々が福山さんとプライベートでお付き合いがある・過去にあった人であれば気持ちはわかるものの、友人でもなく、まして恋人や元恋人でもない方々のコメントとしては大袈裟かつ自己本位・自己中心だよな(=福山さんは貴方のもではなく、恋人や夫になる確率はもともとゼロ%に近いですね?)
- ②生き甲斐がなくなったり、仕事をする気が失せるほど、福山雅治さんという一人の男性・人間の存在は大きいんだ!

さらには資産運用をさせていただいている身として、福山雅治さんの結婚報道がどのような影響を及ぼしたかを少し調べてみました。その結果は下記の通りです。

【9月29日の株価騰落率(前日比)】

日経平均株価 : ▲4.05%

*アミューズ株価 : ▲8.29%

単純計算というよりも、根拠や裏付けのない計算ですが、「日経平均株価」の下落率を差し引くと、「福山・ショック」の下落影響(ご結婚によってファンが減るといふ都市伝説と思われる影響)は「4.25%」となります。

*アミューズは福山雅治さんが所属する芸能プロダクションで東証一部上場企業

アミューズ株価の下落は10月1日現在では結婚報道前の水準まで戻ってきていますが、一時的でも急落したということは、やはり福山雅治さんの存在は“とてつもなく大きい”という一つの証左であると思います。

(今回の「弊社役員メッセージ」は、何かをお伝えしたいということではなく、完全に個人的なコラムです。・・・申し訳ありません。)

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。
◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

一方、大中小関係なく様々な情報を得て、興味を持ち、自分で調べてみることは、自己成長につながるのではないかと思います。資産運用も同じで、マスコミ情報や専門書籍、ウワサなどからのみで判断するのではなく、視野を広げ・情報を自ら取りに行き・自分の頭で考えることが重要と思います。

ユニオン投信株式会社は、上記を実践し、ユニオンファンド仲間の幸福や地域社会の発展につなげていきたいと思っています。

結びに・・・本当に好きな相手(ex 福山さんや吹石さん)であるならば、相手の幸せは自分の幸せです！

平成 27 年 10 月 1 日記

『ユニオンファンド』のリスク

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「投資リスク」をご覧ください。 －

ユニオンファンドは、主に国内外の株式などに投資する投資信託証券等に投資するファンド・オブ・ファンズの形式で運用を行います。組入れる投資信託証券等は、株価変動、金利変動や債券発行者の経営・財務状況の変化等で値動きします。また、為替相場の影響を受ける投資信託証券等もあるため、ファンドの基準価額も変動し、損失を被ることがあります。したがって、**投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金を割り込むことがあります。**

当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「価格変動リスク」、「流動性リスク」、「信用リスク」、「為替変動リスク」、「カントリーリスク」などがあります。

『ユニオンファンド』の手数料等

－ 詳しくは、「投資信託説明書（交付目論見書）」の「手続・手数料等」をご覧ください。 －

【申込手数料】・・・お申込みにあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

※スポット購入時の購入用口座への振込手数料はお客様負担となります。

【換金手数料】・・・ご換金（解約）にあたって弊社にお支払いただく手数料はありません。

【信託報酬】・・・純資産総額に年 0.864% (税抜き 年 0.8%) の率を乗じて得た額です。
毎日、当ファンドの投資信託財産より控除されます。

[*実質的な信託報酬 信託財産の純資産総額に対して年 1.8%±0.3% (概算)]

*『ユニオンファンド』は他のファンドを投資対象としており、投資対象ファンドにおける所定の信託報酬を含めてお客様が実質的に負担する信託報酬を算出しております。

【信託財産留保金】・・・信託財産留保金はありません。

【その他の費用】・・・上記のほか、次の手数料・費用等が投資信託財産より控除されます。

- ① 組入ファンドの売買の際に発生する売買委託手数料（消費税相当額等の費用を含みます。）
- ② 法定資料の作成・交付にかかる費用、信託事務の処理に要する諸費用、監査費用、受託会社の立替えた立替金の利息等

※②は委託会社が一部または全部を支弁することがあります。

注) お客様にご負担いただく手数料・費用等の上限額および合計額につきましては、組入ファンドの売買状況や投資信託財産の規模、またお客様の購入金額や保有期間などに応じて異なりますので、表示することができません。

◆このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見通し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。

◆ 業務管理部よりお知らせ ◆

◆ 取引残高報告書について ◆

今回、「平成 27 年 7 月～9 月」の期間中にお取引があったお客様を対象に、郵送にてご報告しています。

※ 口座に残高があるお客様で、前回の「取引残高報告書」作成日以降お取引がない場合には、1 年毎に「取引残高報告書」にてご報告いたします。

「お取引の明細と預り金の残高明細」の見方

記載対象期間内にお取引された明細および作成基準日現在のお預り金の残高です。

- お取引の明細には、「ご入金」、「お引出し」、ユニオンファンドの「買」「売」が記載されます。
- 最後に表示される「お預り金」につきましては、“作成基準日現在”でユニオンファンドの買付が完了していない場合にはその金額が、完了している場合には「0 円」が表示されます。

「投資信託受益権等の残高明細」の見方

こちらの項目にトータルリターン^①の状況を記載しております。

※ トータルリターンとは、お客様が保有する「ユニオンファンド」について分配金や一部解約した時の金額などを加味した損益情報です。(各項目の額は、確定申告等の税額計算において使用することはできません。)

投資信託受益権等の残高明細(イメージ)

銘柄名	数量	評価金額合計 [a]	運用損益[a-b+c]	円
	基準価額	投資金額 [b]	※a,b,c 及び運用損益は全預り通算で算出	
(預り区分)	評価金額	受取金額 [c]		
(決算日)	取得単価	個別元本		

数量	ユニオンファンドの残高口数です。
基準価額	作成基準日(平成 27 年 9 月 30 日)現在の基準価額です。
評価金額	作成基準日現在の残高の「評価金額」です。 (「評価金額」=「数量」×「基準価額」÷10,000 で算出されます。)
取得単価・個別元本	これまでユニオンファンドを取得された価額の加重平均です。 一般口座でのお取引の場合は、「個別元本」のみが表示されます。
評価金額合計 [a]	評価金額の合計です。
投資金額 [b]	ご購入された金額の累計です。 ※ 相続等により入出庫があった場合は、入出庫分の購入金額または取得価額に相当する金額が増減されます。
受取金額 [c]	ご解約された金額及び受取分配金額の累計です。 ※ ユニオンファンドは設定来、分配金を出しておりません。
運用損益[a-b+c]	作成基準日現在の運用損益です。 「運用損益」=「評価金額合計」-「投資金額」+「受取金額」

「受渡日が 10 月 1 日以降のお取引明細」の見方

記載対象期間内に約定がありましても、受渡日が到来していないお取引がある場合に表示されます。

◆ このレポートは、ユニオン投信株式会社が「ユニオンファンド」に関する情報提供を目的として作成したものであり、当該投資信託受益権およびその他の有価証券の取得を勧誘するものではありません。また、「金融商品取引法」および「投資信託及び投資法人に関する法律」に基づく開示書類ではありません。

◆ 当該投資信託の取得を希望される方は必ず投資信託説明書(交付目論見書)の内容をご確認のうえご自身の判断でお申し込み下さい。
◆ このレポートは信憑性が高いと判断した情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。また、記載された意見・見直し・評価結果等は作成日時点のものであり、将来の市場環境等の変動を保証するものでもなく、将来予告なしに変更することがあります。